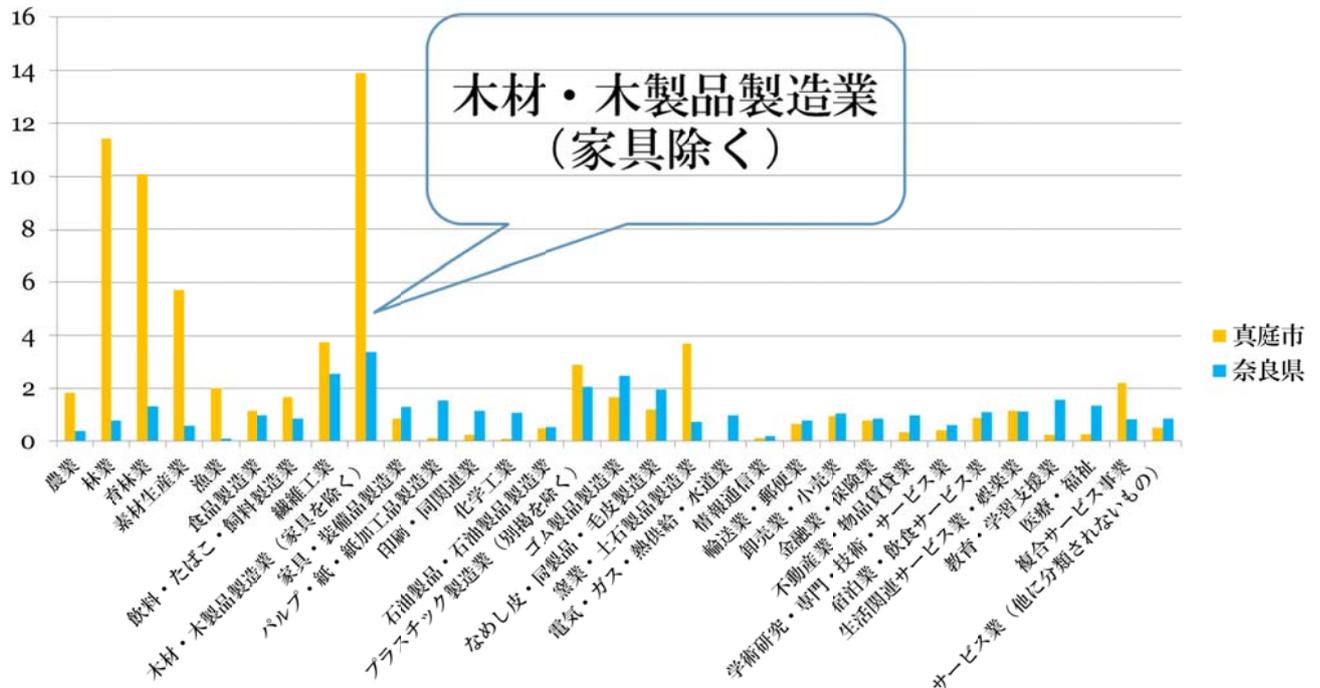


【本件の詳細】

- ① すそ野産業である製材業の存在が重要な要素、無駄のないバイオマス利用を図る
 【従業員数で測った奈良県と真庭市の特化係数(対全国)】



- ・奈良県と岡山県真庭市の比較では、木材・木製品製造業の特化係数が高く、木材が地域内で消費されており、産業として成り立っている。
- ・真庭市では、バイオマス発電を始め、役所関係のボイラーをすべてバイオマス燃料にするなど、市を挙げて取り組み無駄なくバイオマスを利用している。

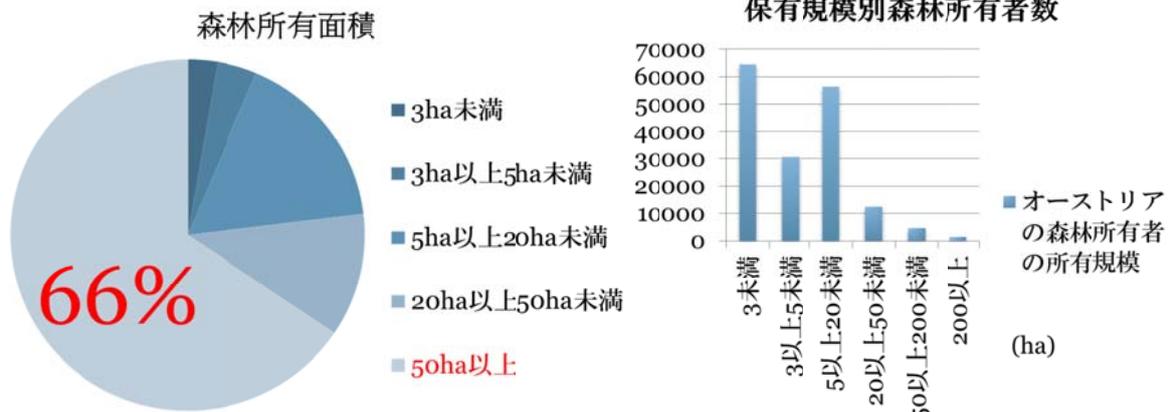
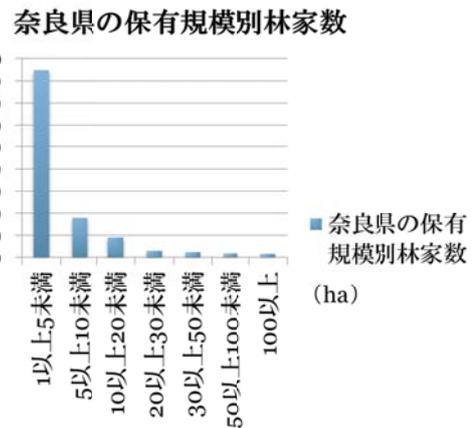
- ② 林業を商業ベースにのせるため、切り出す木材を 30 年物から 70 年物へと大型化させ商品価値を高める

- ・北欧ではインフラが整備されており、商品価値が高く利用範囲の広い樹齢 100 年を超える大きな木を 24 時間稼働して生産している。
- ・日本では林道が整備されておらず、30 年で出荷するビジネスモデルのため、木が細く利用範囲の狭い木材が生産されている。

【外国産材と国内産材のコストの違い】

出典：銘建工業でのヒアリングに基づく

	1日1人当たりの丸太生産量	就業可能時間	斜面	夜間照明	大型トラック乗り入れ可能な大型林道
日本	4~7m ³	6時間	急	なし	なし
中欧	20m ³	24時間稼働	急	あり	あり
北欧	30m³	24時間稼働	なだらか	あり	あり

③ 第一の対策として山林所有者の集約化に取り組み、インフラ整備を進める
【オーストリアの森林所有者の所有規模】

危険な作業道


- ・山林の小規模所有者が多く、開発に時間がかかるのが現状。行政が中心となって所有者の集約を進め、インフラ整備しやすい環境を作る。